

平成19年度

湯河原町のバランスシート

財政課 内線241

このバランスシートは、町の「資産」、すなわち道路や公園、学校といった社会資本整備の状況や、その整備のために借りた地方債（借入金）などの債務で、将来返済を必要とする「負債」の状況などを総務省方式により表したものです。

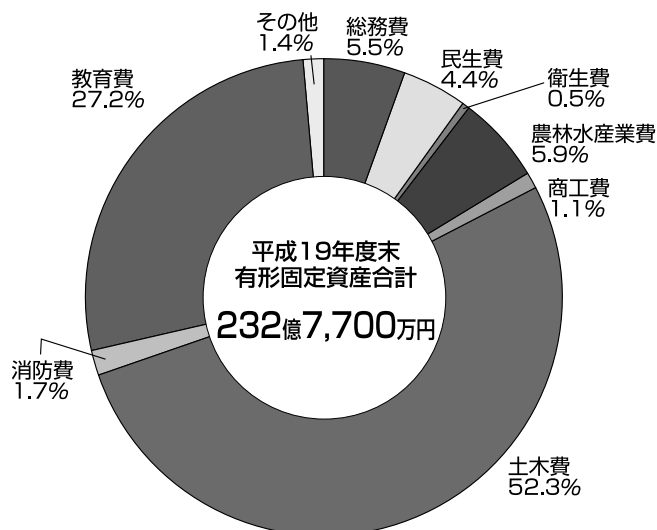
表の左側（借方）は「資産」で、右側（貸方）は、「負債」と社会資本整備に負担された国・県の補助金及び町税などの一般財源等、企業会計でいう「自己資本」に当たる「正味資産」を表示しています。

概要

資産は250億2千6百万円（対前年度1.38%減）、負債は105億9千万円（対前年度2.89%減）、正味資産は144億3千6百万円（対前年度0.25%減）となっています。

有形固定資産のうち行政目的別の割合は、土木費が52.28%（前年度52.69%）、教育費が27.24%（前年度26.37%）となっており、道路、公園などの資産が一番多く、次に学校や社会教育、文化施設などの教育関係の資産が多くなっています。

行政目的別有形固定資産の状況



社会資本形成の世代間負担比率

1 現世代負担比率（正味資産÷有形固定資産）×100=62.02%（前年度61.53%）

これまでの世代によって既に負担された割合で、将来世代への負担を考えた場合、負担比率が高い数字であることが望まれます。

2 将来世代負担比率（負債÷有形固定資産）×100=45.50%（前年度46.36%）

将来返済しなければならない分の割合で、負担比率が低いほど将来世代の負担が少なくて済みます。

正味資産構成比率

将来返済義務のない正味資産の資産に占める割合で、企業会計において経営体質の健全性を示すひとつの指標である自己資本比率に当たります。

正味資産÷資産×100=57.68%（前年度57.03%）